

会報

熊本県日中協会

通刊112号

～さらなる友好の絆を～

《発行》
熊本県日中協会
会長 小野 友道

《事務局》
〒860-0846
熊本市中央区城東町4-2
熊本ホテルキャッスル2F
Tel 096-356-4847
Fax 096-325-2829

令和4年
12月発行

幅広い層の交流必要

小野会長 協会創立節目の五十周年祝う



盛大に催された創立50周年記念祝賀会



木村敬熊本県副知事



主催者挨拶をする
小野友道会長



総領事祝辞を代読
する鬼海洋一理事



深水政彦熊本市副市長



小杉直顧問の音頭で乾杯

熊本県日中協会の創立50周年を祝う記念の祝賀会が令和4年11月9日（水）、熊本市の熊本ホテルキャッスルであり、84人が出席しました。

祝賀会では、はじめに小野友道会長があいさつ。「当協会は1972年の日中国交正常化を機に、真の国家間の友好には幅広い層の民間交流が必要であると

して、国内の同様の協会に先駆け同年11月11日に創立された。この50年の歴史を重く受け止め、次の50年に向かつて、肅々と活動を続けて参りたい」と述べました。

続いて来賓の木村敬熊本県副知事が「国交正常化後、

直ちに交流活動を始められた熊本の諸先輩方に敬意を表したい。野田先生の（講演での）民間交流のお話には、地方自治体間の交流も含まれていると考える。地域間や民間同士の交流が未来をつくっていくという信念で、貴協会と共に、県もしっかりと活動を行っていきたい」と祝辞。続いて深水政彦熊本市長職務代理者（副市長）が「50年の長きにわたり日中交流活動に尽力され、地域の国際化に貢

献されたことに敬意を表したい。コロナウィルス感染症の影響で様々な苦労があったと思う。熊本市においても工夫を重ねながら、交流を進めている。貴協会の更なる発展を祈念する」と述べられました。

また中国駐福岡総領事館の律桂軍総領事から届いたお祝いのメッセージを鬼海洋一理事が代読しました。

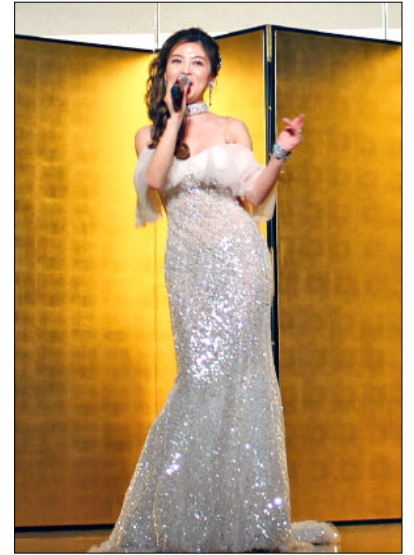
このあと、来賓紹介や寄せられた祝電などが披露され、小杉直顧問の乾杯の音頭で祝宴に移りました。

熊本県日中協会 創立50周年記念祝賀会



熊本在住の中国人を中心に結成された「一衣帯水舞踊団」の優雅な踊り

様々なアトラクション 華やかに会を彩る



于春燕さん。素晴らしい歌声で来場者を魅了しました

見事な演奏を披露してくれた王怡さん。遼寧省師範大学で全中国高級二胡老師免許を取った本格派です



アトラクションでは、「中国の雅（みやび）」と題して、王怡さんの二胡演奏、于春燕さんの中国歌謡一衣帯水舞踊団による中国舞踊が公演形式で華やかに繰り広げられ、会を彩りました。また、招待した留学



熊本地区中国学友会の皆さん。左から、会長の陳正祥さん（熊大）、李曉さん（崇城大）、付瀛淳さん（東海大）



曲に合わせて衣装もチェンジ。傘を小道具に踊りました



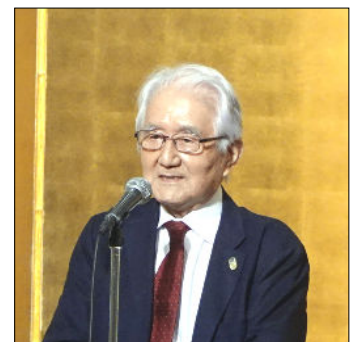
カラフルなチャイナドレスでポーズを決める一衣帯水舞踊団の皆さん

生代表の熊本地区中国学友会のメンバーや、熊本市の国際交流員の余博文さんのスピーチもありました。最後に小山和作理事が「昨夜は皆既月食だった。大事な仲間だ。記念誌の表

紙の漢詩の様に、住むところは違えども、同じ空の下につながっている。本日は様々な状況下、多くの皆様にお集まりいただき、役員として感謝を申し上げる」との閉会の辞で幕を閉じました。



熊本市中国国際交流員の余博文さん。交流事業の窓口や異文化理解のための事業、通訳や翻訳をしています



閉会の辞を述べる小山和作理事

50周年に合わせて、記念旅行や記念講演、記念誌発行を実施しました。

荒尾市バス旅行

本協会と荒尾市日中友好促進会議（浅田敏彦会長）の共催で令和4年10月22日、県内の中国人留学生を招き、中国とのゆかりが深い荒尾市を回る日帰りバス旅行を実施しました。

荒尾市出身の宮崎滔天と中国近代革命の先駆者である孫文との厚い友情は本協会が規範とするものであり、熊本市・荒尾と中国との深

いつなかりを留学生に学んでもらおうとこの事業が実現しました。
中国人留学生19名をはじめ、熊本市中国国際交流員、大学の中国人交換教員、協

会関係者の計25名が貸し切りバスで荒尾市を訪れ、宮崎兄弟生家施設などを見学。中国では大変有名な孫文が、

かつて熊本を訪れたことがあるとは知らない留学生も多く、留学生は熱心に資料館を見学していました。
コロナ対策のため食事は



宮崎兄弟生家を見学



荒尾干潟水鳥・湿地センターで説明を受ける留学生



広大な干潟に感動

バス旅行参加者のみで済ませ、一行は交流会場の荒尾市総合文化センターへ。「日中文化交流in荒尾」一千万年のちまでも続く友情を」と題して文化交流会が行われました。
交流会には荒尾市日中友好促進会議会員、荒尾市事務局、出演団体など総勢84名が参加。
律桂軍中華人民共和國駐福岡総領事の記念講演の後、中国雲南省の伝統楽器、葫芦絲（フルス）や箏と尺八、荒尾太鼓の演奏を楽しみました。
交流会の後は国内最大級の規模を誇る荒尾干潟を見学。少し潮は満ち始めていましたが、天気にも恵まれ、荒尾の豊かな自然を満喫できました。
参加した留学生からは、「滔天と孫文の国を超えた友情を初めて深く理解できた」「魏錦鳳さん、皆さんと一緒に歴史を勉強できてうれしかった」「孫国徽さん、「このような学びと交流の機会を与えてもらい感謝する」田驍さん、などの感想が寄せられました。



律桂軍中国駐福岡総領事が中国語で講演



荒尾三曲愛好会の箏と尺八の演奏



大牟田フルス協会の演奏。フルスの別名は「ひょうたん笛」。独特な音色でした



荒尾太鼓の迫力ある演奏に留学生は大喜び

荒尾太鼓の演奏を楽しみました。
交流会の後は国内最大級の規模を誇る荒尾干潟を見学。少し潮は満ち始めていましたが、天気にも恵まれ、荒尾の豊かな自然を満喫できました。
参加した留学生からは、「滔天と孫文の国を超えた



律桂軍総領事（前列、赤の徽章）浅田敏彦荒尾市長（前列中央）鬼海洋一理事（その右）を囲んで記念写真に納まる留学生ら

記念講演会

祝賀会に合わせ、一般社団法人日中協会会長で前衆議院議員の野田毅氏を講師に招き「これからの日中関係」と題する記念講演会を開催しました。世界情勢などにもふれながら、日中の歴史や現在までの状況、今後の展望など約1時間ほど話があり、参加者は興味深げに聞き入っていました。

これからの日中関係

野田毅前衆議院議員（一社）日中協会会長

「4文書を大切に」

《講演内容より一部抜粋》
日中両国の関係については、しっかりと正しく物事を見つめながら、お互い引越してできない隣人としての関係をどう軌道に乗せていくか考えるべき。喧嘩ばかり



日中協会 会長 野田毅氏
一般社団法人日中協会

りしては良い訳がない。唯々諸々と付いて行くだけでも能がない。
今、中国がアメリカか、など二者択一的な対応を迫られる方が多い。敵か味方か、といった二分法によって物事を判断する風潮がどうも世界的に広がってきている。デジタル化の進展に伴って、多少そのような癖がつきす

91名が参加した記念講演会



記念誌

この4つ目の文書は政府間だけではなく一般にも深く関係する。民間交流の中で積み上げていかなければならないものだ。

※戦略的互恵関係の包括的推進に関する日中共同声明とは、

様々な分野で共通の利益を目指す関係を日中双方が

50年の協会の歩みを振り返り、今後の活動につなげていこうと、協会創立50周年記念誌を編纂、発行しました。

会員や関係者など多くの皆様に「寄稿いただき、創立の趣旨や沿革、「会報でみる協会の10年」として会報から主な記事を抜き出して掲載しました。

表紙には協会理事の小山和作氏の書で、「山川異域 風月同天」という日中善隣友好にふさわしい歴史ある漢詩を飾り、素晴らしい記念誌になったと自

包括的に推進しようという共同声明。以下の5つの柱に沿って協力していくことを決意した。1. 政治的相互信頼の増進、2. 人的、文化的交流の促進および国民の友好感情の増進、3. 互恵協力の強化、4. アジア太平洋への貢献、5. グローバルな課題への貢献。

負しております。〓事務局

ご寄稿者、協賛金や協賛広告など、ご協力いただいた多くの皆様方に、改めて厚く御礼申し上げます。

なお、記念誌は皆様方には既にご送付しておりますが、余部がございますので、必要な方は事務局までご連絡ください。

(TEL 356-4847)



編集後記

協会創立50周年の記念行事はさまざまな制約の中で素晴らしい内容でした。コロナ禍で開催自体ができるかどうかヤキモキさせられましたが、祝賀会と講演会、記念誌、記念バス旅行と節目らしい企画・イベントでした。スタッフの皆さんの苦勞が報われました。▽と言いつつ、実は小生、仕事の都合で当日は参加できませんでした。この会報の粗ゲラを拝見しながら、伺えなかったことを大変後悔しました。特にアトラクションは華やかで見事なようでした。▽3年に及ぶコロナが早く終息することを願うばかりです。以前のように春節祝賀会などが復活し、今回の記念行事に負けないようなイベントで交流が続くことを楽しみにしています。

(機関紙編集委員)

木村圭一郎